

情報リテラシー教育

平成22年度大学図書館近畿イニシアティブ「初任者研修」
2010年6月24日(木) 大阪大学附属図書館総合図書館

関西学院大学 魚住 英子

この研修のアウトライン

■ 情報リテラシーの概念

- 定義
- 何が含まれるか

■ 大学図書館員の情報リテラシー教育への参画

- 「資料のお守役」ではなく「教育に携わる者」
- 「図書館の使い方」から「情報の探し方・使い方」へ

■ 大学図書館サービスの生命線

- 大学図書館員の専門性

「情報」って価値があるもの？

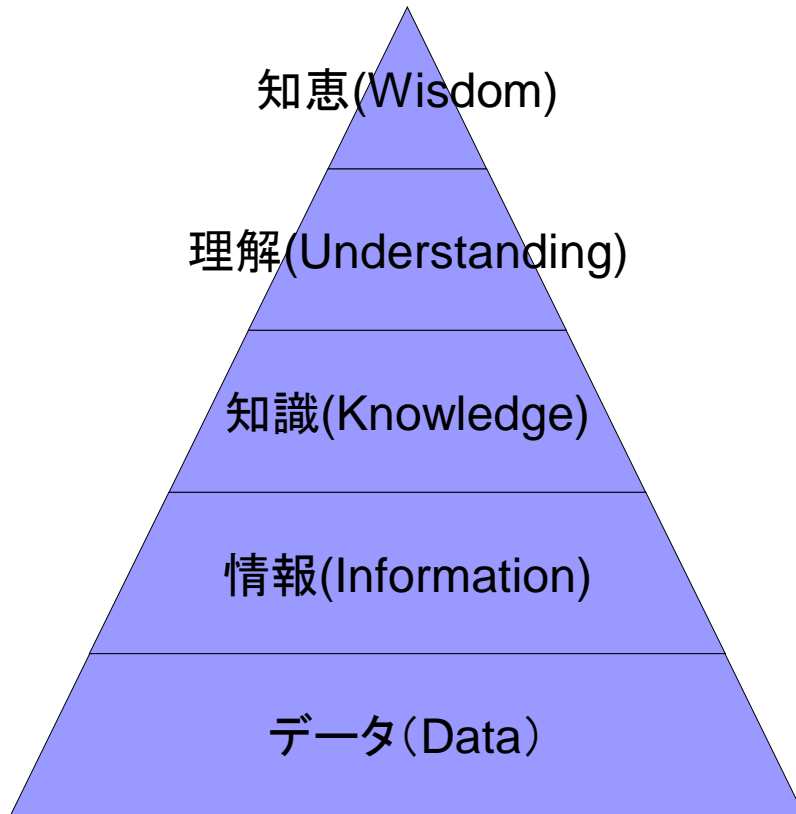
M.Adler 「学習の階段」(1986)

「情報」だけでは学習は完結せず

「情報」・・・断片的

「知識」・・・体系的で発展性あり

情報は、時・場所・環境・受け手等の
要因によって価値が変化



情報リテラシーとは？

情報リテラシーとは、

**「情報が必要なときに、それを認識し、
必要な情報を効果的に見つけ出し、
評価し、利用する」**

ことができるように、

個々人が身に付けるべき一連の能力である。

ACRL「高等教育のための情報リテラシー能力基準」(2001)より
<http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/standards/InfoLiteracy-Japanese.pdf>

ACRLの情報リテラシー能力基準

情報リテラシーを身に付けた学生は、

1. 必要な情報の性質と範囲を見定める。
2. 必要な情報に効果的かつ効率的にアクセスする。
3. 情報と情報源を批判的に評価し、選択した情報を自らの知識基盤と価値観に組み入れる。

ACRLの情報リテラシー能力基準

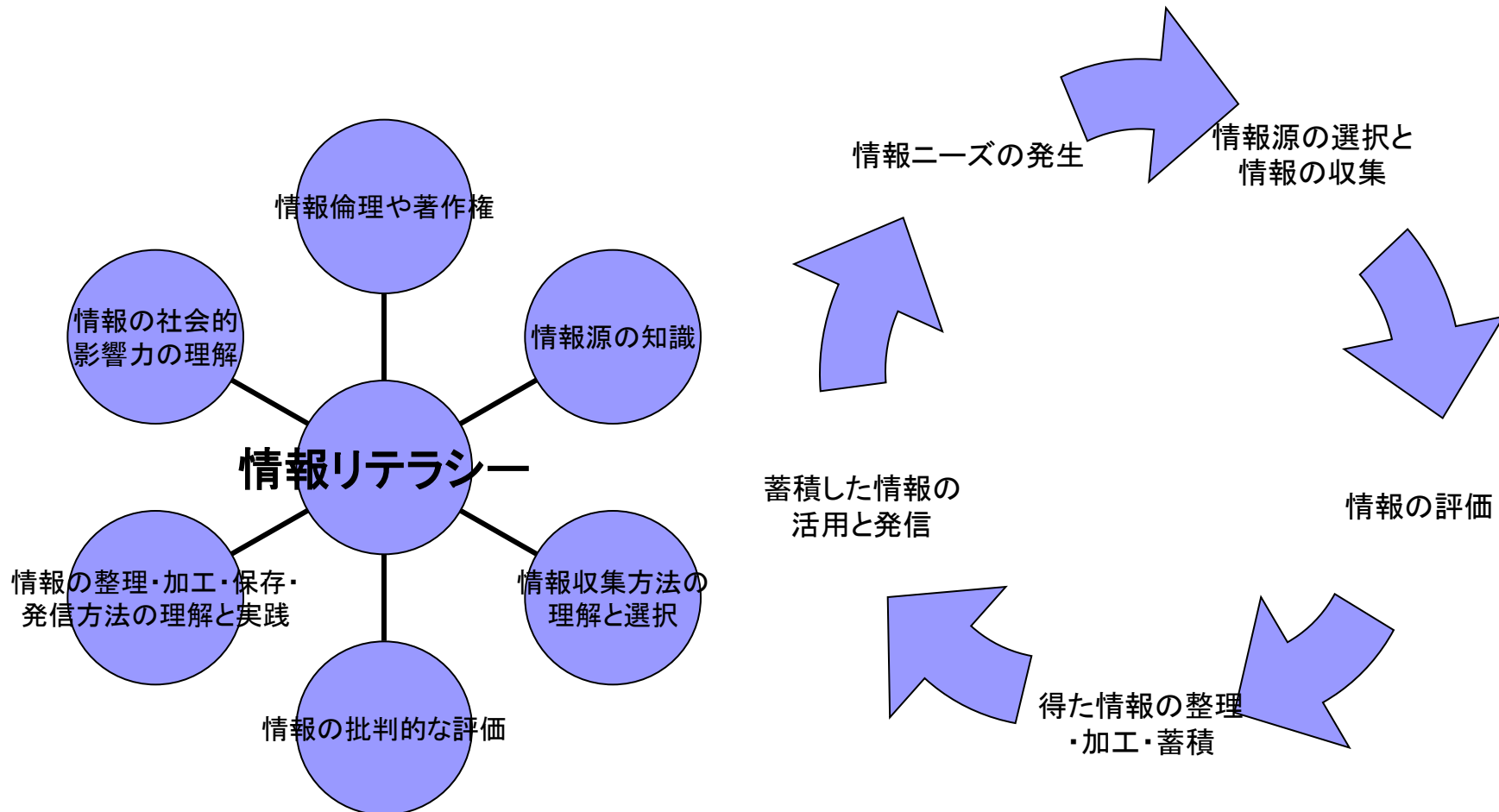
情報リテラシーを身に付けた学生は、

4. 個人として、あるいはグループのメンバーとして、特定の目的を達成するために情報を効果的に利用する。
5. 情報の利用とアクセスを取り巻く多くの経済的、法的、社会的な問題を理解し、倫理と法律に反しないように情報を利用する。

情報リテラシーは広範囲

- 現代社会で生きていくのに、必要不可欠な能力 = 「問題解決能力」
- 義務教育、高等教育、職場、家庭など社会のあらゆる場で適用
- 情報リテラシー > コンピュータリテラシー
- 情報リテラシー > 情報処理能力
- 情報リテラシー > 図書館利用スキル

情報リテラシーと情報の利用



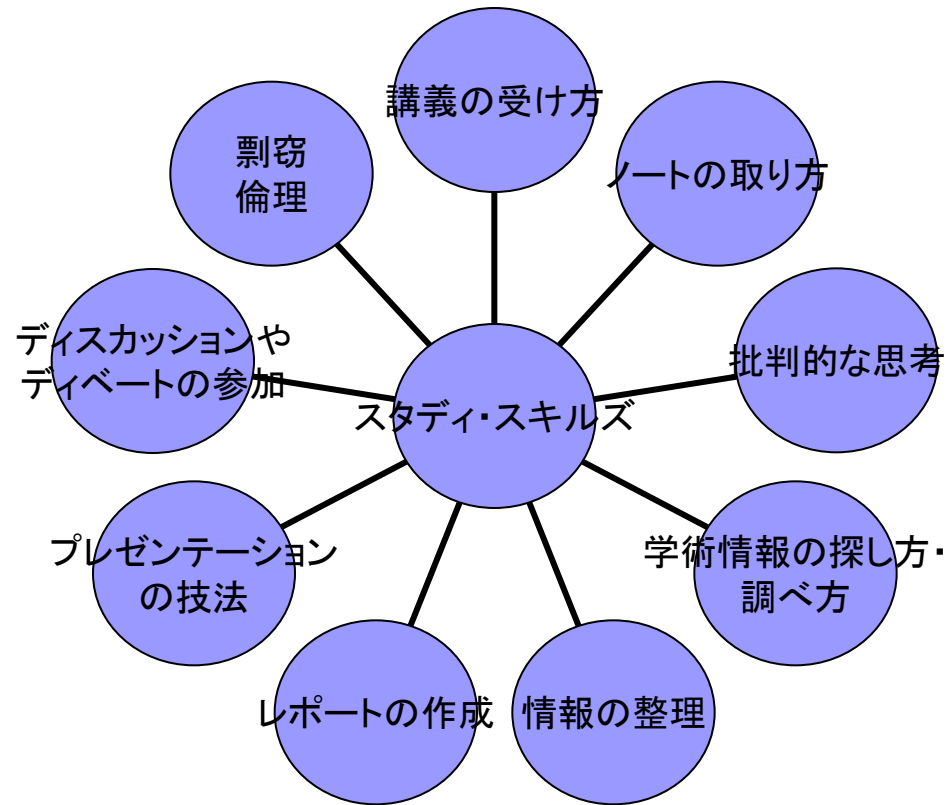
大学での情報リテラシー教育

学生の情報リテラシー習得・向上を目標にして、科目を超えて体系的に取り組むべき課題

初年次教育で扱われるケースが多い

大学生のスタディ・スキルズ

- 聴く
- 記録する
- 読む
- 考える
- 調べる
- 整理する
- 書く
- 表現する 等



情報リテラシー＞図書館利用スキル

なぜ大学図書館？

「大学図書館は情報の宝庫」

自負

- 図書館員は、情報源に通じている
- 図書館員は、昔から情報を仕事で扱っている
- 図書館員は、昔から利用者を指導している

情報リテラシーの重要性を認識するのが早く、
利用教育の取り組みを既に実践していた。

どちらが適当だと思いますか？

学生「情報リテラシーの本はありますか？」

A. (OPACを検索して)〇〇というタイトルの本があって、請求記号は××です。

B. OPACで「情報リテラシー」をキーワードにしてご自分で検索してみてください。やり方は…

情報リテラシー教育の観点では

- 「答えを教える」のではなく、「答えを見つける方法を教える」
- 「代わりに探してあげる」のではなく、「本人が探すためのアドバイスを与える」

「自立した情報利用者の育成」

大学図書館の変化

＜伝統的イメージ＞

- 貴重な本の書庫
- 静謐かつ重厚
- 本を読んだり、調べたりする場所
- 「その図書館にある」資料を利用
- 図書館員は「本の守役」

＜現在＞

- 本もデータベースも
- カジュアル
- パソコンが使えて、勉強できる場所
- 「その図書館にない」資料でも利用できる
- 図書館員は？？？

大学図書館での「教育」の多様化

1. Library Orientation

図書館の利用案内・ガイダンス、館内見学ツアー

2. Library Instruction

図書館資料の探し方・使い方

3. Bibliographic Instruction

(特定主題の)情報源の認知、情報の収集・評価方法

4. Information Literacy Instruction

情報リテラシー育成・向上

L.J.Hinchliffe “Instruction” 2010

図書館利用教育ガイドライン

- 領域1： 印象づけ
- 領域2： サービス案内
- 領域3： 情報探索法指導
- 領域4： 情報整理法指導
- 領域5： 情報表現法指導

日本図書館協会利用教育委員会
「図書館利用教育ガイドラインー大学図書館版ー」

利用教育の形式

■ セミナー形式(Workshop)

OPACやDBなどの検索講習会等を単発で実施

■ 学科関連指導(Course-related Instruction)

授業時間内で、教員の代わりに図書館員が指導

■ 学科統合指導(Course-integrated Instruction)

カリキュラムに組み込まれており、教員と図書館員が分担して指導

■ 独立科目形式(Credit Course)

図書館が開講あるいは図書館職員が講師となって、単位を認定する講義を担当

大学新生への図書館利用教育



”They need to be introduced through **library instruction** . . . to the academic nature of the services and resources available in university libraries.”

ACRL/ALA “Guidelines for University Library Services to Undergraduate Students”

新入生へのアプローチ (関西学院大学図書館の場合)

【実施形態】

選択肢:

1. 学部オリエンテーションの一環
 - 原則全員参加だが、受身。
2. 個人の自由参加型
 - 関心のある学生しか来ない。
3. クラス単位
 - 受講生は半強制的に参加。

「基礎演習」単位で実施

- ✓ 全学部で開講し、必修
- ✓ 学科関連指導の位置づけ

【目標・レベル】

大学図書館の基本的な利用方法を知らせる。

- 図書館の利用目的
- 図書館サービスの紹介
- 書架や施設の案内

「図書館利用教育ガイドライン—大学図書館版—」における

- 領域1: 印象づけ
- 領域2: サービス案内

演習対象の文献探索講習会(関学図の場合)

【実施形態・内容】

- 演習単位で実施
- 基礎演習(1年生)と研究演習(3年生)の2種類のレベル
- 研究演習レベルでは、主題に応じた情報探索法を指導
- 1人1台のパソコン操作環境で、実習主体

【目標・レベル】

図書館の資源を利用して自分で文献を探す。

- 図書・論文等の探索法
- 主題に応じたデータベースや参考図書等の紹介
- OPACやDBの検索技術

「図書館利用教育ガイドラインー大学図書館版ー」における

領域3： 情報探索法指導
(学科関連指導)

学科関連指導の発展形

- 単に「図書館活用」にとどまらず、情報ニーズの認識から収集、整理、評価、加工、発信などの情報リテラシーを養うことを目的とした授業が開講されている。
- 教員と共同、あるいは図書館職員単独で担当し、単位も認定。

「図書館利用教育ガイドラインー大学図書館版ー」における

領域4： 情報整理法指導

領域5： 情報表現法指導

大学図書館サービスの生命線

人減らし、予算減らしのターゲットになりやすい大学図書館の現状において…

「専門性」を訴えていく

ことが死活問題

情報リテラシー教育にかかわることで、「専門性」を図書館外にも広く認知してもらうのも戦略のひとつ

大学図書館員の専門性

図書館業務の知識・技能の習得は当然のことながら、

- 情報源の知識
 - 学生のニーズやレベルの理解
 - 社会や大学の動きの把握
- も必要

図書館員に求められる能力

「三つのC」

- 批判的読解 : Critical reading
- コミュニケーション(表現と理解) :
Communication
- コラボレーション(情報の共有と共働) :
Collaboration

有吉末充 2010

参考文献(日本語のみ)

<図書>

日本図書館協会図書館利用教育委員会編 『情報リテラシー教育の実践:すべての図書館で利用教育を』 東京:日本図書館協会, 2010.

日本図書館協会図書館利用教育委員会編 『図書館利用教育ハンドブック 大学図書館版』 東京:日本図書館協会, 2003.

<図書の一部>

野末俊比古「大学図書館と情報リテラシー教育—「指導サービス」の意義と展開—」 逸村裕、竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』 東京:勁草書房, 2005.

参考文献(日本語のみ)

<論文>

大城善盛「情報リテラシーと図書館サービス」『現代の図書館』45(7), 2007, 183-189.

慈道佐代子「情報リテラシー教育の理論的枠組みと大学図書館における実践についての考察」『大学図書館研究』75, 2005, 44-53.

慈道佐代子「一年次教育における図書館の役割ー図書館が参加・実践する情報リテラシー教育を考えるー」『大学図書館研究』82, 2008, 12-21.

瀬戸口誠「情報リテラシー教育とは何か: そのアプローチと実践について」『情報の科学と技術』59(7), 2009, 316-321.



ありがとうございました

関西学院大学図書館

魚住 英子

uozumi@kwansei.ac.jp